



TUFS
Cinema

マレーシアドキュメンタリー映画上映会

斧は忘れても、

木は覚えている

The Tree Remembers/ 還有一些樹

事前登録制



2022年

Sat.

7月9日

14:00上映開始 (開場13:40、17:00終了予定)

〈プログラム〉

- ◎ 映画『斧は忘れても、
木は覚えている』上映
2019年/台湾制作(撮影地:マレーシア)/
華語、英語、マレー語、オラン・アスリ諸語/89分
- ◎ 講演 盛田 茂
(立教大学アジア地域研究所特任研究員)

〈お問合せ〉

東京外国語大学

広報・社会連携室
(TUFS Cinema担当)

TEL 042-330-5867

(平日9:00-17:00)

Email tufscinema@tufts.ac.jp

Facebook [@tufscinema.pr](https://www.facebook.com/tufscinema.pr)

Twitter [@tufscinema](https://twitter.com/tufscinema)



詳細は TUFS Cinema WEB にて
<http://wp.tufts.ac.jp/tufscinema/>

場所 東京外国語大学

アグラ・グローバル プロメテウス・ホール
(東京都府中市朝日町3-11-1、西武多摩川線「多磨」駅徒歩5分)

主催: 東京外国語大学 TUFS Cinema

協力: 東京外国語大学多言語多文化共生センター

入場無料/先着順/事前登録制(定員250名)

登録フォーム

<https://forms.gle/GjV9y8cNSYBPrrU59>



フォーム

※事前登録がなくてもご来場いただくことは可能ですが、会場入口で参加登録をしていただきますので、事前にご登録いただくとスムーズにご入場いただけます。定員を超える場合は、事前登録を済ませた方を優先させていただきます。
※感染対策のため、必ずマスクを着用の上、ご来場ください。

TUFS Cinema とは、

東京外国語大学が不定期に開催する

一般公開の映画上映会のことです。

世界には、さまざまな価値観や

言語文化的背景を持つ

民族・宗教・社会が存在し、

多種多様な「暮らし」が繰り広げられています。

こうした世界の諸地域の諸相を

映像とトークセッションを通して見つめ、

理解を深めていく機会を提供する企画です。

今回のTUFS Cinemaでは、

台湾在住の華人系マレーシア人監督の作品を取り上げ、

東南アジア映画や東南アジアの国々について、

さらに深く知ってもらい機会としたいと思います。



講演者のご紹介 *Talk*



盛田 茂

MORITA Shigeru

立教大学アジア地域研究所特任研究員。専門はシンガポールの映画研究。著書に『シンガポールの光と影——この国の映画監督たち』(2015年、インターブックス)がある。



作品について

台湾在住のマレーシア華人、ラウ・ケクファット監督は「ドキュメンタリー映画監督の仕事は、当事者でなければ決して感じる事のできない個人・家族の実体験を基に歴史を再評価する事だ」と述べている。

本作は、アーカイブに保存された写真、映像資料を横系にし、公式発表で死者196名、負傷者439名が犠牲になったマレー人・華人間の民族暴動「513事件」と、マレーシア半島部に居住する少数先住民族オラン・アスリの苦渋に満ちた歴史を辿りながら、彼らが直面する慣習的土地利用を犯す森林伐採とイスラーム化(同化)政策の状況を縦系にして紡ぎあげられた作品である。

証言を基に、心の奥に深く封印された個人の記憶を理性的・客観的な筆致で掘り起こした監督の制作意図は「加害者は忘れても、被害者は苦しみの歴史として記憶する」を意味するアフリカの諺「What the axe forgets, the tree remembers」から採られたタイトルに示されている。しかし残念ながら、513事件は「敏感な問題」として50年を経た今でもタブー視されており、本作のマレーシアにおける劇場公開の目はたっていない。

台北金馬映画祭(2019)金馬奨ドキュメンタリー賞ノミネート、台北映画祭(2019)ドキュメンタリー賞・音楽賞・音響デザイン賞ノミネート、DMZ国際ドキュメンタリー映画祭(2019)アジアン・パースペクティブ賞ノミネート。

「斧は忘れても、木は覚えている」

(The Tree Remembers/還有一些樹)

2019年/台湾制作(撮影地:マレーシア)/

華語、英語、マレー語、オラン・アスリ諸語/89分/日本語字幕付き

監督:ラウ・ケクファット(Lau Kek Huat/廖克尧)